

AV ニュース エクスプレス

文部科学省「教育用ソフト・コンテンツ」募集
文部科学省「デジタルコンテンツの活用高度化事業」の企画募集
NECC2002 日本代表プレゼンター決定
「日本教育情報学会第18回年会開催」に伴う研究発表募集

文科省情報

文部科学省「教育用ソフト・コンテンツ」募集

文部科学省では、(財)学習ソフトウェア情報研究センターに委託し、教育用ソフト・コンテンツの開発と普及を推進するため、企業・団体・学校・教職員・個人・グループ等が制作する優良な教育用ソフト・コンテンツの募集をする。募集対象は、次の要件を満たすもの。

- (1) 平成11年4月以降に新規発売・提供、またはバージョンアップし、現在発売・提供されているもの。
- (2) 平成14年4月現在、ホームページからダウンロード(無償または有償)でき、今後1年以上継続して提供可能(見込み)なもの。
- (3) 学校の授業で使用する教

材ソフト、素材等コンテンツ、ツールソフト、教育支援ソフト、または一般学習用ソフト。

(注) 学校運営用(校務)ソフトウェア、OS等基本ソフトウェア、インターネットホームページは除く。

<応募の締め切り>

平成14年5月24日(金)必着

<問い合わせ>

(財)学習ソフトウェア情報研究センター 電話03-3464-1980
Email:gjk@gakujoken.or.jp

*詳しくは、下記アドレスの「まなびねっと」の募集要領を参照。<http://www.manabinet.jp/ouboyoko.html>

文部科学省「デジタルコンテンツの活用高度化事業」の企画募集

文部科学省では、「わかる授業の実現」「情報活用能力の育成」を図るため、教職員、学識

経験者(教育委員会の指導主事を含む)、教育関連団体等からなるコンソーシアム(協議会)を構成し、すべての教職員がコンピュータやネットワーク等の視聴覚機器を用いて、各種のコンテンツを十分に活用した授業を実施できるようにするための実践研究を実施する。そして、その成果を蓄積し広報・周知することにより、いつでも、誰でも、どこからでも様々な実践事例やノウハウを自由に参照できるようにするものであり、この度、本事業実施のための企画募集を行う。

<事業の内容>

- (1) 授業の実践者たる教職員を中心とし、学識経験者(指導主事を含む)、教育関係団体等(教育団体、教育機器や教材関連企業等)からなる「コンソーシアム(協議会)」を構成する。

ブックレビュー



「教育メディアとともに」
中野照海著 日本視聴覚教育協会発行
2002年3月刊 A5判 233頁
2,000円(税込)

畏友・中野照海博士による待望のエッセー集である。休日の午後、あまりの面白さに魅せられて一気に読了し、その後、要所所を2度、3度と拾い読みしながら、教育メディアの奥の深さに改めて感じ入っている。

収録されたエッセー66編中60編までが、教育メディアに関わる話題について 研究論文ではとても書けそうにないことを、随想という形式を借りて自由に話した(著者の言葉)という内容であるが、学問的な厳しさでは定評のある中野さんのこと、どの1編も確固とした学的研究成果や知見に立脚していて、それだからこそ、優れたSFを読むようなスリリングな面白さも満喫できたのである。

私は、このエッセー集から少なくとも2つのことを学んだ。

まず、全体的に、教育メディアの“哲学”に眼を開かされた。これまで私は、視聴覚教育は“発見学習”のためのものと割り切っていたが、グローバルな視野から、これは考え直す必要がありそうだ。もう一つ、部分的には、映像による学習の評価、とくに情意領域の目標についての評価の研究が、旧態依然の低迷状況にあることを知らされた。教育評価の畑で苦勞し、映画の鑑賞教育にも関心が強い私としては、これはもう黙ってはいられないと、尻を叩かれる思いしきり。

知と行の傑人・中野照海が、寺田寅彦の系統に属するエッセーの名手であることは分かったが、『視聴覚教育』誌などに発表されたままの未刊の啓発的論文が山ほどある。“評論集”の刊行を切望する次第。(大内 茂男)

そして、すでに存在するデジタルコンテンツを活用し、専門的技術的見地に基いた教育実践の蓄積を行う。

- (2)「コンソーシアム」の構成員に教育委員会や教育センター等の指導主事を必ず含むことにより、すべての教科において教職員のコンテンツ活用実践力を向上させるためのノウハウの蓄積および周知・広報を実施する。
- (3)いつでも、誰でも、どこからでも実践事例を自由に参照することができるようにするため、「コンソーシアム」内のサーバに成果を蓄積し公開する。

<対象>

- (1) 委託先は、実践者たる教職員、学識経験者(指導主事を含む)、教育関係団体(企業を含む)等により構成された「コンソーシアム(協議会)」とする。
- (2) 研究協力校は、原則として

12校以上であること。研究協力校には、普通教室にインターネットに接続されたネットワーク環境を有すること。

- (3) 上記の「コンソーシアム」内には、既に、実践事例の蓄積場所となる「Webサーバ」を保有していること。

<研究委託期間・規模(金額)>

- (1) 期間は、基本的に1年単位での委託契約とする。

- (2) 規模(金額)は、「1コンソーシアム」あたり、年間1千万円程度とします。

<応募方法>

企画を応募しようとする者は、別途定める様式の「企画書」を提出のこと。(企画書書式は下記ホームページ参照)

<募集・選定スケジュール>

- (1) 応募の締め切りは、平成14年5月10日(金)必着

- (2) 企画の採択は、平成14年5月下旬を目途に行う。

<応募先および問い合わせ先>

文部科学省生涯学習政策局
学習情報政策課メディア係
電話 03-5253-4111(内2659)
FAX 03-3581-9148
<http://www.mext.go.jp>

AV 情報

NECC2002 日本代表プレゼンター決定

世界の情報教育団体との交流を目的とした非営利の組織である NECA(Nippon Education Computing Association)では、今年6月17日から19日にかけて、米国で開催される「NECC2002」における日本代表プレゼンター2名を選出した。

小宮晴美(東京都私立桜丘女子中等高等学校教諭)/実践教

ブックレビュー



「アニメ文化と子ども」

柳田馨著・柳田真澄編 日本図書刊
行会刊・近代文芸社発売
2001年11月刊 B6判 200頁
1,400円(税別)

『千と千尋の神隠し』(宮崎駿監督)がベルリン映画祭で最高賞を受けたことが引き金になってかアニメーション映画に対する教育的な視点からの関心が高まっている。「教育的」というよりも、もっと広く、それを「子どもの成長・発達との関わりで」とらえることが重視されるようになったのだ、というべきであろう。しかし、もっぱらこのことを論じた論考はほとんど見当たらないように思われる。

本書はその数少ない類書の貴重な1冊であると考えられる。著者は視聴覚教育の研究者として映画を中心に独自の歩みを続けてこれ、劇映画やアニメーションにも深い造詣を有しておられた。著者は1998年世界されたが、教育学研究者である夫人が論稿をまとめられた。

内容は、第一にディズニー・アニメを中心にアニメーション映画の分析と文化的な特性を映像、音楽の両面から考察している。とりわけ『ファンタジア』についての分析を通じて、この作品の音楽映画としての性格を丹念に評価した第2～3章は注目される。20年ほど以前の論文であるが、作品研究の優れた事例として参考になる。

第2は第4・5章での日本での子ども向き映画の回顧と展望を試みた論考である。子ども文化としての映画の行方を見すえている。

それらの分析的考察の上で、第3にテレビを含めた今日のアニメーション映像を、子どもの文化環境として、どう教育的にとらえて育てるかが、論じられている。(高轟 康雄)

科：情報・課題研究/実践学
年：高校3年生/タイトル：
レプリカミュージアムを用いた
調べ学習 調べ学習を通して分
かちあう、学ぶ喜び

山田浩(静岡県南伊豆町立三
浜小学校教諭)/実践教科：音
楽/実践学年：小学6年生/タ
イトル：よみがえれ三濱小学校
校歌

学会情報

「日本教育情報学会第18回
年会開催」に伴う研究発表募集
日本教育情報学会は第18回
年会を山口大学を会場に開催す
る。年会の中においては、シン
ポジウム・パネルディスカッ
ションならびに課題研究発表お
よび一般研究発表を行う予定で
あり、このたび当該研究の発表
者を募集する。ただし、一般研究

の発表者は、発表の時点で「日
本教育情報学会」の会員である
ことが、要件とされている。

<期日>

平成14年8月31日(土)～9
月1日(日)(*一般研究発表
は8月31日、課題研究発表は9
月1日に予定)

<会場>

山口大学 吉田キャンパス
山口県山口市吉田1677-1

<課題研究発表について>

・課題研究は次の4つの「課題
研究テーマ」から選択する。

「教育コンテンツ・評価(素
材、ポートフォリオ、教材開発
など)」「教育方法・技術
(遠隔教育、ICT、カリキュラム、
教育実践など)」「新教育課
程(総合的な学習の時間、小学
校英語)」「教師教育と生涯
教育(教員研修、社会教育)」

<一般研究発表について>

発表内容は「教育情報に関する
研究」であれば、特に内容は問
わない。「教育情報」は、大き
く見て「教育に関する情報」と
「情報に関する教育」が含まれ
ている。

<研究発表申し込み方法>

申込締切/5月17日(金)

申込方法/必要事項を記入の
上、年会実行委員会事務局へ郵
送のこと。

*申込用紙は下記年会実行委員
会ホームページより入手のこと
<発表申込書送付先ならびに問
い合わせ先>

日本教育情報学会 第18回
年会実行委員会事務局
〒753-8513 山口市吉田1677-
1 山口大学教育学部附属教育
実践総合センター内
電話&FAX 083-933-5461
[http://www.ica-j.org/jsei18/
minibbs.cgi](http://www.ica-j.org/jsei18/minibbs.cgi)